（第2号様式）

宮特第　2629号
令和5年　3月 6日

沖縄県教育委員会教育長　殿

沖縄県立宮古特別支援学校
校長　　下地　靖子
（公印省略）

令和4年度県立学校学校評議員の運営状況について（報告）

令和5年2月10日付け教県第1995号により依頼のありましたみだしについて、下記のとおり報告します。

記

1　日時、場所、出席状況等

第1回	日時	令和4年7月7日	場所	本校視聴覚室	出席状況	5名の評議員の出席（全5名）
第2回	日時	令和4年11月14日	場所	本校視聴覚室	出席状況	3名の評議員の出席（全5名）
第3回	日時	令和5年2月9日	場所	本校視聴覚室	出席状況	3名の評議員の出席（全5名）

2　学校評議員に求めた事項

今年度は特になし。

3　学校評議員の意見

●コロナ禍ではあるが、できるところをやっていくことが大切。これまで通り頑張って欲しい。
●宮古島内のリモート交流が小学部で行われていることは良い。このような状況下ではリモート交流はいい取り組みであるので、そのような計画をどんどん進めて欲しい。
●学校全体で節電に取り組んでいる様子がよく分かった。光熱費等の予算の制約はあると思うが、クーラーなどの稼働は子どもたちの健康に直結する大切な部分なので、是非そこは最優先に取り組んで欲しい。
●本校卒業生で、就職したがやめてしまったり、仕事が続かなかったりすることが多い。学校にいる間に就業体験の取り組みを工夫して、子どもたちを見守り、数多くの効果的な就業体験を進めて欲しい。
●学校の予算が厳しいなら総合事務局や企業からの寄付などフリーハンドの外部予算利用を検討しては？
●コロナ禍で非常に大変な状況が続いているが、雰囲気のいい学校運営ができている。就労についてはすぐには解決できない。学校は工夫し社会と接点を持ち、子どもたちに「生きる力」を育んでいく必要がある。

4　学校運営に反映した事項

●地域感染レベル・感染者数を十分に加味し、また双方の学校にて感染対策を講じたうえで交流学習を実施した。また、コロナ検討委員会等で多方面からの意見交換をして校内のクラスター発生を防いだ。
●クーラーの稼働については、適時壊れたクーラーの代替品を準備し、応急処置的にではあるが、子どもたちの健康を第一にして必要な所では、適切なクーラー稼働に努めた。医療的なケアが必要な児童の教室のクーラーが壊れた際、すぐに全職員でクラスの引っ越しを行って対処した。
●コロナ禍ではあったが、外部講師を招いての進路指導講話、月に1回の外部関係機関との連携協議会の実施、保護者向けの情報発信の強化など行った。また、早期の進路決定ができるように就業体験計画の見直しを実施した。
●舎生活のあらゆる場面で、感染症拡大防止のための新しい生活様式を実施し定着を図った。

5　課題その他

●教員の欠員（3名）が出ている状況での学校運営は難しい。
●幼稚部の学校間交流を実施したい。
●肥満傾向の児童生徒の増加に対しての指導、家庭との連携についての取り組みが必要。